



部材断面表

C1 #E1 100x900 C2 #E2 800x900

G1 大型 350x700 G2 小型 500x900

B1 小型 300x600

S1 #37#1 T=200 CS1 #37#1 T=150

面積表

$$2F \quad 36 \times 28 - 10 \times 14 - 7 \times 4 - 7 \times 4 - 2 \times 24 - 1 \times 1 = 152$$

$$1F \quad 36 \times 28 = 1008$$

$$合計 1160.$$

記述を基に正しく再現

(1) 建築計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

① 研修部門の各室について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと

地域住民との交流の場として、研修部門へ全館に集約させることで、セミナー室とアトリエが回廊型にすることでわかりやすい配置とした。

② エントランスホールの計画について工夫したこと

地下鉄駅舎下にもわかりやすいように、事務所の受付カウンターを駅除室近くに設けた。吹抜け上部にヒューリゲートを設け、自然採光を確保し、明るく快適な空間に工夫した。
--

③ 勾配屋根の形状を活かした室内空間とするために工夫したこと

アトリエの天井を勾配屋根に沿って作り、他室と繋げて空間をつくり、変化を持たせよう工夫した。

(2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由

建物の用途と規模により、耐火性、耐久性、断熱性は、構造形式によって異なる。柱間内に梁がある場合は、柱間に梁を設け、純ラーメン構造とした。スパンの割りは、安全性に配慮し、構造耐力上合理的なスパン割り(3.0m×7m、7m、10m)を組合せたスパン割りとした。
--

② 勾配屋根の構造計画について工夫したこと

勾配屋根の深さについて、増加せず、2段階とすることで安全性に配慮した。 (図等により補足してもよい。)

(3) 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

① アトリエにおいて、採用した空調方式、空調機の設置位置及び良好な室内環境とするための吹出口・吸入口の計画について工夫したこと

採用した空調方式	単一ducted方式
空調機の設置位置	アトリエ北東角
吹出口・吸入口の計画について工夫したこと	吸入口は床下から少し吹出口は床面上部天井近くに用いた。自然対流による空気の循環が快速にできるようにした。

② 建築物の省エネルギーにおいて、自然採光の促進、日射遮蔽及び空調エネルギーの削減について工夫したこと

自然採光の促進	エントランスの吹抜け上部にスカイライトを設け、自然採光を取り入れるために工夫した。2階の送迎スペースもヒューリゲートの光を確保できるように日射遮蔽を設けよう工夫した。
日射遮蔽	アトリエの大きな窓開口には、半遮型ルーバーを設け、利用状況に応じて日射取得、日射遮蔽ができるよう工夫した。
空調エネルギーの削減	Low-Eガラスを採用することで、冷房負荷の低減に取り組んだ。また、換気には余熱交換器を採用し、冷暖房負荷の低減につなげよう工夫した。

③ 受変電設備、空調室外機及び浴室用の給湯・ろ過設備の設置位置について工夫したこと

受変電設備の設置位置	床面積の有効利用ができるため、1階設備スペース(屋外)に設けた。管理室門前近くに設け日暮メンテナンスがやりやすいようにした。
空調室外機の設置位置	日暮メンテナンスに配慮して、屋上設備スペース(水平移動式)に設けた。屋上設備スペースへは管理室門前の階段から出入りができるようにした。
浴室用の給湯・ろ過設備の設置位置	1階設備スペース(施設内)に設け、給湯の熱損失が少なくてすむように浴室下に設けた。